

東日本高速道路ソーシャルボンドの購入について(令和8年1月30日)

千代田区では、令和8年1月30日、基金の運用を通じてSDGsへの寄与、社会貢献につなげていくため、東日本高速道路株式会社が発行するソーシャルボンドを購入しました。

SDGs(持続的な開発目標)は、国連が提唱したよりよい社会の実現を図る世界共通の目標で、社会、経済、環境の面から17の目標が定められています。SDGs債は、これらの目標の実現のためのプロジェクトに資金が活用されるものです。

東日本高速道路株式会社は、既に取得済みの国際資本市場協会(ICMA)の定めるソーシャルボンド原則に加え、令和6年6月にサステナビリティボンドガイドライン等に適合している旨の外部評価を格付投資情報センター(R&I)から取得しました。

同社は、これまでソーシャルボンド(社会的課題の解決)を発行しており、令和6年7月の5年債からは、サステナビリティボンド(社会的課題の解決に加え、環境面の改善、課題解決を目標)も発行されています。

これに伴い、同社の高速道路の新設、改築、更新等を通じ、地域活性化、災害対策、交通安全、といった社会的課題解決とともに、大雨、積雪時の道路ネットワークの確保といった環境面、気候変動への適応に資金が充当されることとなりました。

同社の発行するSDGs債(ソーシャルボンド、サステナビリティボンド)は、SDGsの目標では、「目標3:すべての人に健康と福祉を」、「目標8:働きがいも経済成長も」、「目標9:産業と技術革新の基盤をつくろう」、「目標11:住み続けられるまちづくりを」、「目標13:気候変動に具体的な対策を」の課題解決を目的としています。また、その目指す成果は、区の環境施策、災害対策、地域振興施策などの多くの事業との趣旨と合致します。

東日本高速道路株式会社が発行したSDGs債の購入は令和7年11月に続き、今回で合計20回目となります。千代田区は今後も東日本高速道路ソーシャルボンドをはじめ、SDGs債への投資で基金の一部が活用されることにより、SDGsの実現を目指していきます。